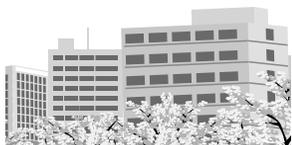


## 会員の広場



### 古希過ぎて履く3足の草鞋

小西 恒彦（東京）

長年勤務していた会社を定年退職した翌日に貿易会社を設立した。海外の多くの友人から「このままりタイアするのはもったいない、これからも一緒に仕事をしよう」と言われ、電子部品などを扱う貿易を始めることにした。日本橋の事務所を毎朝8時に出勤して、夕方

に退社し、時には海外へ出張するという生活は人生に張りを与えてくれ、幸い会社を潰すこともなく、何とか15年が経過した。

70歳になったとき、英語の翻訳を本格的に勉強してみようと思ひ立ち、Babel Universityという大学院に入学。通信教育で翻訳の勉強を志した。これが2足目の草鞋である。毎週送られてくる課題に取組んで解答を出し、評価と添削を受けるといふ勉強は、毎回新しい発見があり、楽しい知的訓練になった。本来なら2年で終了すべき修士課程を4年かかって卒業し、2010年に74歳で Master of Science in Literary Arts & Film Translation という学位を取得できた。卒論で翻訳した *Bigger isn't Always Better* といふ経営に関す

る本を「拡大主義への決別」と題して出版した。400頁もの大作で自分では良書だと思ったが、あまり売れなかった。しかし、この勉強で脳のシナプス細胞を活性化させることには役立っていると思っている。

私は学生時代に端艇部に所属し、ボートを漕いでいた。退職後、昔の仲間と再度、ボートを漕ぐと、週に2回ぐらい戸田コースでオールを握ることになった。これが3足目の草鞋である。最初はきつかった身体も次第に慣れてきて、筋力が増し、レースにも出るようになった。幸い2007年から全日本マスターズ・レガッタが開催され、参加した。最初は歯が立たなかったが、次第に勝てるようになり、昨年は75歳クラスの4人乗りのクオ

ードで優勝し、2人乗りのダブルスカルでは昨年と今年優勝することができた。2012年にはドイツで行われた世界マスターズにもエイトで参加。さすがに世界の巨漢には勝てず大敗を喫したが、楽しい遠征であった。人間の筋力は鍛えれば、幾つになっても増大すると本には書いてあるが、確かに基礎訓練と練習で筋力も持久力も付いてきて、足腰の鍛錬に役立っている。何よりも楽しいのは学生時代の仲間と一緒に漕げることと、終わった後の仲間と一杯やりながらの歓談である。

喜寿を過ぎた今、3足の草鞋を履き続けるのは難しいことだが、脳を活性化し、足腰を鍛えながら、未来に向かって希望を持って歩み続ける人生でありたいと願っている。